

9.16 さようなら原発 全国集会

4万人越えの被災者が 苦しい避難生活を 続けている



9月16日、東京、代々木公園で「さようなら原発全国集会」が開催され、全国各地から約8000人が参加した。全港湾から東北地方40人、関東地方48人、本部から5人総数で93人が参加した。

最後に呼びかけ人から、事故後の8年半、原発はどうしたら安全かなどの科学論争が行われてきたが、人類と原発は共存できないことがはっきりした。人間として原発は許すことは出来ない。市民一人ひとりが立ち上がり頑張りましょうとの力強い訴えがあり集会は閉会しました。
(東京支部 佐藤史生)



主催者を代表して、落合恵子さんは「原発被害は現在進行形で進んでいる、新しい環境大臣はどう対応するか問いかけていきましょう」と語り、「原発ゼロを目指していきましょう。できなければ私たちは、なんて悲しい人生をおくっているのでしょうか」との澤地久枝さんのメッセージを紹介した。また福島原発事故刑事告訴訴訟支援団から現在の状況が報告されいまだ4万人を越える被災者が苦しい避難生活を続ける中での厳しい生活実態が報告されました。政党からは、2018年3月に立憲民主党など野党4党が中心となり国会に提出した「原発ゼロ基本法案」が原発推進の与党などによって本来真摯にエネルギー政策が議論されるべきところが棚ざらしになっていると報告があった。
連帯の挨拶として核兵器廃絶のため署名活動を行っている高校生1万人署名活動「止めよう！辺野古埋め立て」国会包囲実行委員会と、戦争させない9条壊すな！実行委員会の報告があった。

